

ヤブシタ

サンシェードの導入が拡大

気流・騒音解析から特注対応に至る実績着々

遮音パネルや-10dBシステムも

防音製品



中澤 拓也リーダー

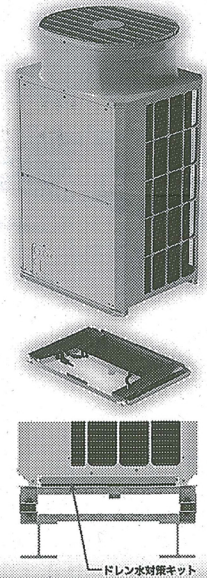
空調・冷熱機器の部品メーカーとして、防雪フードや防音システムの開発・製造・販売を手掛けるヤブシタ(社長・森忠裕氏、本社・札幌市中央区北1条西9-3-1)。同社は近年、室外機からの気流と騒音の解析に力を入れており、対策部材の特注製作も含めて、多

くの納入実績を積み重ねて、解析依頼は年々増加しており、同社は専門チームを編成して対応し、今年度上期(4~9月)も多くの案件を手付けした。製品軸では、気温の上昇を背景にショートサーキット防止システム「サンシェード」の導入が増大した。防音製品では「遮音パネル」や「マイナス10デシベル(dB)仕様 防音システム」も好調に推移している。

上期の大型案件としては、神奈川県の大田区センター(DC)で、約70台の設備用エアコン向けに採用された実績がある。ここでは昨夏、吸気温度が高まり、高圧カットが懸念されたため、今夏までに高圧カット対策を講じたという要望があった。そこで全ての室外機に、サンシェードと共に排熱を上方に排出するための直上ダクトを導入した。同社は現場調査の上でサブコンと打ち合わせを行い、一カ月の短工期に間に合わせることであった。この案件では、気流解析を行い、対策部材の検討も行っていた。その際、機器メーカーがサンシェードを推薦したこともあり、同社の部材が採用された。また、某大手スーパーマーケットチェーンにおいても、高圧カット防止のため、30店舗でGL設置の冷凍機室外機向けに採用された。ここでは、まずは2店舗に試験導入し、室外機の吸気温度を実測。温度低減効果が確認できたことで、30店舗に導入を拡大した。

また騒音対策としては「遮音パネル」の導入も進んだ。上期は大阪や埼玉で、食品工場や倉庫等のビル用マルチや冷凍機を複数台設置するケースで、近隣への防音対策として採用された。いずれもサブコンからの依頼案件であり、同社は騒音解析を実施した上で、現場に合わせてパネルを設計・製作し導入した。更に、モジュールチャイプやビル用マルチ向けの「マイナス10dB仕様防音システム」も好調。特にモジュールチャイプ用のシステムは昨年、大型DC案件で採用され、フェーズの進行と共に継続的に導入が進んでいる。同システムは現在、メーカーの見積もりシステムや力タログにも掲載され、手間なく発注が可能。こうした中、これまでは現場対応と騒音解析のセットで依頼されることが大半だったが、最近では徐々に見直しシステムからの注文が増えているという。いわば標準品として購入されることが増えているわけだが、背景には、スペックアップ活動を行い、機器表に「ヤブシタのマイナス10dB仕様」の指定案件が増え、製品への信頼性が広く認められ始めていることがあ

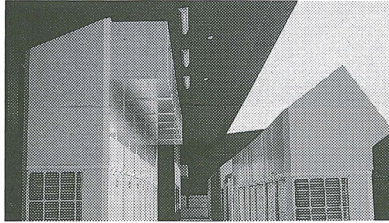
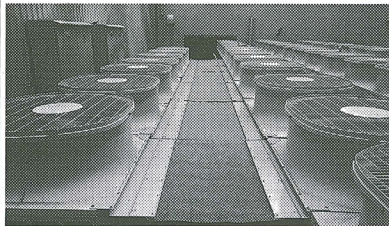
る。このほか、昨年発売した三菱電機製の「三菱電機製」も特注対応が可能。寒冷地のみならず関東地域でも、冬場、室外機熱交換器から排水されたドレン水がエアコン底面で根水となり、エアコンを損傷させてしまう「凍害」を防止する製品である。また、防振台上で凍結し、振動の減衰効果が発揮されないことが問題になっている。同製品は、室外機の下部に取り付けるヒーター付きのドレンパン。その独自性は、架台設置後の既設室外機にも後付けが可能。また最低気温がマイナス25℃となる北海道北見市の施設(KIT FRONT)で、フィードバックを実施し、効果を実証済み。



「ヒーター付き ドレン水対策キット」

マルチ向けに「ヒーター付きドレン水対策キット」を発売した(三菱電機製)も特注対応が可能。寒冷地のみならず関東地

サンシェードの導入事例



特注フードの導入事例

このほか気流対策として、特注フードも日々同社に問い合わせが寄せられている。その多くが、設置スペースが狭小だったり、設置場所が屋根がなかったり、あるいは室外機を集中設置したり、排熱に問題・懸念が生じているケースだ。同社は気流解析の上で、問題を解消できるフードを特注で

設計・製造している。最近の事例としては、滋賀県の某工場が挙げられる。ここでは、ビル用マルチのトップフロア・室外機を軒下に前後2列に設置する設計であり、排熱対策として、気流解析の上で特注品を設計・製作した。解析においては、まず対策なしの場合にショートサーキットが発生することを確認。次に防雪フードを取り付けて解析したところ、それでも排熱が上方に排出しきれず、吸気温度が高くなるということが分かった。そこで、前後列で長さの異なる導風ダクトを導入して解析したところ、吸気温度の低減効果を確認できた(なお、こうした解析結果は、カラーの温度分布図を用いて関係者に分かりやすく示している)。同社では最近、機器メーカーの代理店等向けに、勉強会を数多く開催している。勉強会では気流解析や騒音解析、解析に基づいた特注部材の事例等を紹介しており、最近では特にサンシェードへの関心が高まっているという。気温が上昇する中、真夏の機器の高圧異常が問題視されており、一方で狭小スペースに室外機を集中設置せざるを得ないケースも多いからだ。サバーの継続稼働が死活問題となるDCでも関心は高いという。また、同社はこうした勉強会や同社ウェブサイトで公開している「ヤブシタHOTT新聞」を通じて、導入事例を二経緯や背景も含めた「ストーリー」紹介している。その効果もあって、機器メーカー代理店等と連携して提案する機会も増えているという。

既設機後付け可能ドレン対策キット ヒーター付き今夏発売 ヤブシタはメーカーとして新製品の開発にも余念なく取り組んでいる。同社は今夏、ビル用